



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 349
April
2022

トピックス

メンバー国との協力推進

ADRC DRRレクチャーシリーズ

関係機関との協力推進

2021年度オンライン津波セミナー

国際会議への参加

日アセアン官民防災セミナー

ADRCスタッフ紹介

堀池 美江 管理部長

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
https://www.adrc.asia

© ADRC 2022

●メンバー国との協力推進

ADRC DRRレクチャーシリーズ

アジア防災センター (ADRC) は、1999年からメンバー国からの外国人研究員 (VR: Visiting Researcher) の受け入れを実施しています。2021年3月時点で27か国から合計117名を受け入れており、メンバー国の人材育成および防災情報の収集を進めています。VRのプログラムは、日本国内で実施されるADRCでの研修プログラムを通じて、革新的かつ実用的な防災の取り組みや技術を学び、国際機関との協力や連携について知見を得ます。同プログラムは、メンバー国の人材育成、対応能力の強化に留まらず、メンバー国とADRCとの間の防災協力の発展に貢献することが期待されます。

2020年度のVRプログラムについては、ミャンマー、タイ、インド、バングラデシュから4名が選考されました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により来日が困難となり、「VRオンラインプログラム」が実施されました。2021年度は、アルメニア、モンゴル、ベトナム、パキスタンから4名が選考されましたが、新型コロナウイルスの影響が続いたことにより、ADRCは、VRの方々の研究テーマを支援するため、来日前の活動として、「DRRレクチャーシリーズ」を開催しました。

この「DRRレクチャーシリーズ」は2022年3月に実施され、日本国内の防災に関する専門家を講師として招聘し、日本の国及び地方自治体レベルにおける基本的な防災対策、洪水や地震など、災害別の具体的な防災対策や最新の取り組み、防災教育の普及、災害時要援護者と連携した防災活動など、合計8回の講義が行われました。この、「DRRレクチャーシリーズ」は、来日できていない上記8名のVRを対象としていましたが、さらに、外国人研究員の活動を幅広く知っていただくよう、メンバー国の関係機関の職員の方々にも多く参加いただき、聴講して頂きました。

ADRC DRR Lecture Series
(Exclusive for ADRC Counterpart Organizations)
3 - 29 March 2022
(Eight lectures during this period, see right)

- 3 March 15:00-16:00 Disaster Management in Japan
Prof NISHIKAWA Satoru
Professor, Disaster Mitigation Research Center, Nagoya University
- 8 March 14:00-15:00 Mainstreaming DRR
Prof NISHIKAWA Satoru
Professor, Disaster Mitigation Research Center, Nagoya University
- 9 March 14:00-15:00 Flood Disaster Management
Prof KAWAIKE Kenji
Professor, Research Center for Fluvial and Coastal Disasters, Disaster Prevention Research Institute (DPRI), Kyoto University
- 15 March 15:00-16:00 Local Flood Disaster Countermeasures
Mr TERATANI Takashi
Vice President, Hyogo Construction Technology Center for Regional Development
- 17 March 14:00-15:00 Earthquake Disaster Management
Dr FUKUSHIMA Seiichiro
CEO, RIK Consulting Co., Ltd., Japan
- 22 March 14:00-15:00 Landslide Disaster Management
Prof GONDA Yutaka
Professor, Lab. of Erosion Control Engineering, Faculty of Agriculture, Niigata University
- 24 March 14:00-15:00 School DRR Education
Mr SUJWA Sujji
Specialty Appointed Professor, Graduate School of Disaster Resilience and Governance, University of Hyogo
- 29 March 14:00-15:00 Inclusive DRR
Dr TSUJIKAWA Aya
Research Associate, BOSAI Research Center, Doshisha University

Registration
https://bit.ly/ADRC_DRRLS

Register and attend three or more workshops to receive a Certificate of Participation.
For application of the Certificate:
https://bit.ly/RequestForm_DRRLS2021

*Note that above time is in Japan time (UTC+9)

DRRレクチャーシリーズのチラシ

●関係機関との協力推進

2021年度オンライン津波セミナー

ADRCは、「世界津波の日」普及啓発イベントとして、今年度もオンライン津波セミナーを2022年3月9日に開催しました。今回のセミナーは、津波

続き

頻発国であるチリのバルパライソ大学（チリ）からマウリシオ・ライス・ガラルド准教授を招き、「チリにおける津波防災の経験」と題して講演いただきました。

はじめに、チリの概要について、スペインの植民地化から現代に至るまでの歴史的経緯、人口動態の変化と都市化の進展、地震や津波の多い地理・地形などが紹介されました。そして、災害リスクについて、チリはマルチハザードの国であり、その中でも最も顕著なハザードが地震と津波であり、例として1960年、2007年、2010年、2015年等に発生した津波を挙げ、これらの経験は津波リスク管理を強化する契機になったと述べました。

具体的には、第一に、日本のツールの採用などによる津波早期警報システムの技術的な改善や、津波現象の監視と研究の継続的な取組みが促進されました。第二に、国家建築基準法および耐震補強基準の策定と採択を導きました。第三に、「国家津波警報システム」（SNAM）と「津波予測・警報統合システム」（SIPAT）が適用され、人々に津波の危険性を周知させるとともに、安全な避難行動を促すようになりました。しかし、津波リスク管理は改善されたものの、チリでは都市計画の欠如、社会的・経済的・文化的な複雑さ、教育不足、テクノロジーの活用不足、インフラの整備不良などの要因から、依然として津波に脆弱であり、複雑な津波リスクの中で更なるシステムを構築していくためには、リスクガバナンスが重要であると強調しました。

最後に、ADRCの中川雅章所長が、講師と参加者への謝辞を述べるとともに、2022年1月に発生したトンガの火山噴火とその後の津波は、多くの国に津波の危険性があることを改めて認識させたとし、今後も日本や他の国で得られた経験や教訓を共有することで、ADRCは津波防災を推進していくと締め括りました。

本セミナーの講演資料など詳細につきましては、下記のサイトからご覧ください。

2021年度オンライン津波セミナー：<https://www.adrc.asia/acdr/2021tsunami>



津波セミナーの様子

●国際会議への参加

日アセアン官民防災セミナー

2021年10月14日に開催された第1回日アセアン(ASEAN)防災閣僚級会合（AMMDM+Japan）において、ASEANと日本は、早期警報、緊急対応、情報共有、データ分析、事業継続など、災害管理におけるイノベーションとテクノロジーを活用した互恵的な協力に取り組むことに合意しました。この合意に沿って（また、ASEAN災害管理緊急対応協定(AADMER)作業プログラム2021-2025の実施に貢献するために）、内閣府とASEAN事務局は、2022年3月29日に「日アセアン官民防災セミナー」をオンラインで開催しました。日本からは、ADRC、国際協力機構（JICA）、国立環境研究所（NIES）気候変動適応センター、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）、三井住友海上、応用地質株式会社、株式会社パスコといった機関がセミナーに参加しました。

セッション1「防災における技術革新」では、ASEAN事務局から「ASEAN災害レジリエンス概観（ASEAN Disaster Resilience Outlook）」、JICAから「地域防災計画策定8ステップ」、ADRCから「防災イニシアティブ」、NIESから「気候予測」、JSTから「事業継続マネジメント」に関する講演が行われました。ADRCの中川雅章所長は、GLIDE、センチネル・アジア、準天頂衛星システム

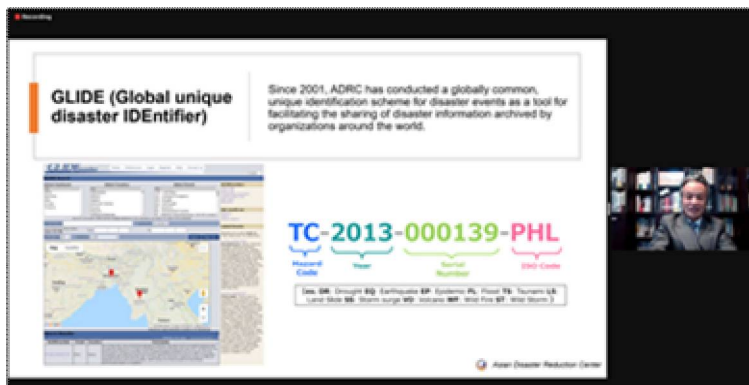
続き

早期警報サービス (QZSS-EWS)、コミュニティ防災 (タウンウォッチングなど)、人材育成 (客員研究員プログラムなど)、JICA防災研修など、同センターの革新的な活動を紹介し、ADRCの災害リスク軽減推進に向けた取組みについて説明しました。

セッション2「防災技術」では、ASEAN防災人道支援調整センター (AHAセンター) から「防災に関するICTロードマップ」、内閣府から「災害時情報集約支援チーム (ISUT)」、三井住友海上火災保険株式会社

から「ビッグデータを活用した洪水リスク情報」、応用地質株式会社から「リスクコミュニケーションツールとしてのServiBers」、株式会社パスコから「防災におけるリモートセンシング技術の貢献」が発表され、防災における技術的な成果が報告されました。

本セミナーの成果は、AADMER作業プログラム2021-2025の実施や、日ASEAN防災作業計画2021-2025の策定に寄与することが期待されます。また、2023年に開催される科学技術フォーラムの開催に向けた協力も検討されています。



ADRC中川所長による発表の様子

●ADRCスタッフ紹介

堀池 美江 管理部長

2022年4月1日付で兵庫県から派遣されました堀池美江と申します。前職は自治体国際化協会北京事務所で日本の地方自治体の国際化を支援していました。北京市で過ごした3年間は、海外に目を向けるたいへん貴重な経験となりました。

県庁では消防課での勤務経験が長く、2008～2012年度、2015～2018年度の通算9年間在籍し、1回目の勤務では消防防災ヘリコプターに関する業務を、2回目の勤務では自主防災組織など地域防災業務を担当しました。在任期間中は佐用町などが被害を受けた2009年の豪雨災害や2011年の東日本大震災などの災害対応も経験しました。

国際防災分野での経験は長くありませんが、2013～2014年度にJICA国際緊急援助隊事務局で勤務しています。2013年11月には、大型台風ハイヤンで甚大な被害を受けたフィリピンに国際緊急援助隊医療チーム (2次隊) の一員として派遣され、被災地のレイテ島で支援活動を行ったことを今でも覚えています。

4月からADRCの一員として心機一転して業務に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。